

令和4年度 静岡市健康福祉審議会  
第3回高齢者保健福祉・介護保険合同専門分科会

1 日時

令和5年2月16日(木) 午後7時15分から午後9時まで

2 場所

静岡市役所静岡庁舎新館3階

コミュニティ&ダイニングスペース茶木魚(ちゃきつと)

3 出席者

【出席委員】

○高齢者保健福祉専門分科会

東野会長、磯垣委員、遠藤委員、北島委員、木村委員、清野委員、小塩委員、  
小林委員、猿田委員、清水委員、田中(秀)委員、田宮委員、原川委員

※欠席：佐々木委員

○介護保険専門分科会

富安会長、石川委員、石田委員、市川委員、春日委員、国京委員、塩澤委員、  
杉山委員、宗委員、高山委員、田中(博)委員、原川委員、八木委員、若月委員

※欠席：小澤委員

○鈴木アドバイザー

【事務局】

○地域包括ケア推進本部

千須和本部長、繁田本部長次長、森川次長補佐、石上主幹、南條係長、森山主任主事

○高齢者福祉課

大畑課長、海野課長補佐、横畑係長、村松主査、芳賀主任主事

○介護保険課

平林課長、橋本主査、増田主任主事

○健康づくり推進課

松野課長補佐

○地域リハビリテーション推進センター

深澤所長、内藤係長

○区高齢介護課

杉原課長(葵)、吉良課長(駿河)

4 傍聴者 0人

5 概要

(1) 開会

(2) 地域包括ケア推進本部長挨拶

本日は委員の皆様方におかれましては、ご多忙の中、当合同専門分科会に御参加くださいまして、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症につきましては、第8波ということで、年末年始にかけて、かなり感染が広がってまいりましたが、ようやくこのところ、感染状況や病床のひっ迫状況が落ち着いてまいりました。

また、感染症法上の位置づけでございますが、政府が5月8日から5類感染症とする方針を出す等、ウィズコロナを前提とした生活、感染防止に配慮しながら普段の生活を取り戻す方向に、動きが加速化したように感じております。こういった動きは、例えばS型デイサービス等、介護予防活動の更なる復活復帰に繋がるものと考えております。

これまで大変厳しい状況におかれておりました、本市の健康長寿のまちづくりですが、今後もできる限り取組を正常化してまいりまして、推進してまいりたいと考えております。

本日の分科会におきましては、次期「健康長寿のまちづくり計画」である、「健康長寿・誰もが活躍のまちづくり計画案」につきまして、昨年11月から12月までにかけて実施したパブリックコメントに基づく修正案、そして次期「高齢者保健福祉・介護保険事業計画」作成のための実態調査等について説明をさせていただき、委員の皆様から御意見を伺いたいと存じます。

委員の皆様におかれましては、どうぞ忌憚のないご意見やアドバイスをいただけますよう、よろしくお願いいたします。

(3) 高齢者保健福祉専門分科会会長挨拶

今回は最終的な計画案について議論をすることになっております。

膨大な資料がありますが、今日は2時間の会議ということで、細かいところまでは議論できません。

忌憚のないご意見は賜りたいのですが、本日議論しきれない部分については、別途意見照会がありますので、改めて会議後に事務局に御提出いただければと思います。

パブリックコメントもかなり面白い意見も来ており、そういったところも踏まえて計画案を作られているので、ぜひ読んでいただいて、意見を賜りたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

(4) 介護保険専門分科会会長挨拶

この寒い中、オンラインも含めて計27名の委員の皆様にご参加いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。時間の限られた中ですが、ぜひ意見を頂戴して、計画をよりよいものにできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 5 議題

### (1) 次期計画素案について(資料1-1から1-4)

(繁田次長) 資料1-1から1-4について説明

(田中(秀)委員) 資料1-2の8ページに、「サッカー・野球等のスポーツやホームタウンチームを活かしたまちづくり」とありますが、これを加えた理由は何でしょうか。

(繁田次長) スポーツの担当課から追記するよう要望があったためです。

(田中(秀)委員) サッカーや野球はプロをイメージしているのでしょうか。

(繁田次長) サッカーはエスパルスがあるのでプロを意識しています。野球は、野球チームを誘致したいという市長の想いがあるので、それも含めて期待をしているところです。

(田中(秀)委員) スポーツの楽しみ方として「自分自身がやるスポーツ」、「それを支える、ボランティア的な支えるスポーツ」、「見て楽しむ、見るスポーツ」の3つがあるのではないかとされています。プロ等は「見て楽しむスポーツ」ということでスポーツ人口を増やす目的があると思います。まず見てみる、それによってスポーツの醍醐味や魅力を感じ、自分もやってみようとなってくる、そうするとやるスポーツに代わってくるわけですね。

自分自身が身体を動かして汗を流すことが健康に繋がると思うので、そういうステップを踏みながら、1人でも多くの市民がスポーツに触れる機会が増えればありがたいと思っております。

(清水委員) サッカーや野球は一生続けるには厳しいスポーツだと思います。卓球のプロチームがオクシズを拠点に活動を始めたと聞きましたが、卓球は幼児から高齢者まで競技人口が多くて一生続けられるスポーツだと聞き、生涯スポーツとしてとても良いのではないかと思いました。また、場所もそれほど広く確保しなくて良いですし、費用もかからないので、そういうものも1つ頭において進めたらどうかと思いました。

(繁田次長) 卓球に関しては最近の話なので計画には載せていませんが、葵区役所が推進をしているところです。認知症対策にも卓球が良いのではないかとということで、今後、「かけこまち七間町」でのイベント開催等、連携をしていけるよう企画をしているところです。

(遠藤委員) 以前もお伝えしましたが、資料1-3で「10~70代の市民の約5割がボランティア活動に参加したいと感じている」となっていますが、私の現場感覚では8割の方がやりたくないと感じているように思います。そういった方々の動機付けをどうするかが一番大事なことはないかと思えます。

シニアクラブも合併時(平成17年度)約29,000人いましたが、あと数年で10,000人を切るおそれがあります。その理由として、役員をやりたくないということがあると思えます。シニアクラブの会長が辞めると、後継者がいないため解散になってしまうということもあります。

この「約5割がボランティア活動に参加したいと感じている」ということをベースとして考えるとうまくいかないのではないのでしょうか。かつての「1人1運動」も廃れてしまいました。実態をきちんと把握するとともに、どのように動機付けをするか、「自分たちのことは自分たちで」という自助を浸透させるにはどうしたら良いか、もっと考える必要があるのではないかと思えます。

(富安会長) 役員の負担が多いということですが、計画の中にも「介護現場DX推進事業」とありますが、そういうものを展開していくことで、シニアの方々の負担軽減とも連動させることができるのではないかと思えます。些末な色々なことが負担になっていると思われるので、そういった部分をデジタルで助けられないか、静岡市の方が考えるというのはいかがでしょうか。

(繁田次長) いただいた意見を参考に、この計画の取組を連携させるなどして、何ができるかということも含めて検討させていただきたいと思えます。

(遠藤委員) 「やりたい」ということと「やれる」ということは別だと思えます。例えば「地域の防災訓練に参加したい」ともありますが、今までやっていなかったのかとも思いました。また、パブリックコメントで意見提出したのが118人ということですが、非常に少ないと思えます。意見の収集方法もこれから考えてくださればと思えます。

(東野会長) 気持ちと行動は別ということもあるので、行動に移せる仕組みを作っていくところも必要かなと思えます。日頃の仕事等の制約を変えていくということもアプローチとしては必要だと思えます。

(小林委員) 障害者福祉の方で、A型やB型の施設基準、就労時間や最低賃金の基準等、諸々の制度がありますが、例えば仕事をしたいけど練習もしたい、障害手帳を持っていない方が少しずつ準備をするとき等、就労への移行段階で、有償ボランティアのような仕組みが静岡型のようなかたちであったりすると、とても柔軟性があって良いなと思えました。

(東野会長)まさに「誰もが活躍」の部分にあたると思いますが、マッチングがうまくいくこともそうですし、社会参加の方法もバリエーションがあっても良いのかと思います。そういったところを考えて計画を推進していただければと思います。

(繁田次長)申し訳ありませんが、障害の関係については担当課が出席しておらず、障害事業所の施設基準などが把握できておりませんので、ご意見は、担当課に確認して参考とさせていただきます。

## (2) 次期高齢者福祉計画・介護保険事業計画作成のための実態調査について

(大畑課長)資料2-1について説明

(平林課長)資料2-2について説明

(若月委員)「制度がわかりやすい」「わかりにくい」とはどういう意味合いでしょうか。

(平林課長)現段階は単純集計のため、今後自由意見等を参考に分析をしていきたいと思えます。

(若月委員)急に症状が悪化した場合の相談先等、とっかかりが分からなくて制度がわかりにくい、そして相談せずにいることで症状が悪化するということもあるかもしれません。その解決策として、回覧板等で、何かあった場合の相談窓口を頻繁に周知してはどうかと思います。

(平林課長)ありがとうございます。

(田中(秀)委員)私は城内地区の会長をしておりますが、城内地区を困りごとの無い地区にしようということで取り組んでおります。困りごとが起きて支援が必要なときの相談先の携帯電話番号を、マグネットシートに記載して2,400世帯に配布しました。マグネットなので貼り付けておけば無くすこともありません。

(平林課長)ありがとうございます。参考にさせていただきます。

(東野会長)何か分析方法等について御意見があれば、事務局にご意見を出していただければと思います。

(若月委員) 介護サービス利用をした場合の、平均的な自己負担額を教えてくださいと思います。

(平林課長) 所得によって1～3割の自己負担となりますが、資料3の5ページに1月あたり給付月額が151,831円とありますので大体17,000円位(151,831円×10/9の1割)となります。また、高額介護サービス費等の制度もございます。改めて資料等を送付させていただきます。

### (3) 第8期介護保険事業計画進捗報告について

(平林課長) 資料3について説明

(春日委員) 予防給付での介護老人保健施設のショートステイの日数が増えているということですが、コロナ感染等の隔離のために臨時でショートステイを利用したということもあるのかと思いました。

(平林課長) そのような傾向もあるかと思います。今後検証させていただきます。ありがとうございます。

(富安会長) 資料2-2において、「ケアマネジャーの対応が良い」と答えた方の割合が高いですが、杉山委員、こちらについていかがでしょうか。

(杉山委員) とても嬉しいことだと思います。私たちケアマネジャーの日々の取組を評価してくださっている方が多いのかなと思いました。しかしながら、まだまだ制度の理解や制度だけではできない部分がたくさんあり、そういった部分を地域包括ケアシステムの中でどのようにやっていくのが、先ほどのボランティアの話も含めて、課題になっていくのではないかと思います。

(八木委員) 医療は医療・看護・介護・福祉の連携がとても重要です。地域で対応していくことが今重要視されているので、地域包括ケアとうまく連携をとっていただければ。また、私たち医療関係者としては、何かあればすぐ受診していただければ適切に介護に繋がられると思いますので、皆さまの周りからも、症状の疑いがある方がいれば、受診を勧めていただければと思います。

以上、この議事録が正確であることを証します。

令和<sup>5</sup>~~6~~年7月20日

榎町定幸

議事録署名人

令和~~5~~<sup>6</sup>年7月20日

富家真理

議事録署名人